

# 東山の森だより

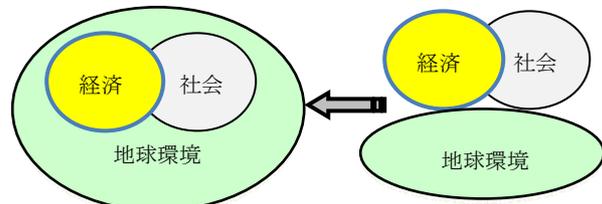
【第 19 号】

発行：なごや東山の森づくりの会  
 発行者：滝川正子  
 編集：広報班  
 発行月：2013年10月  
 (年2回発行)

・確かな未来に向かって	(滝川正子)	.....	1~2
・東山の森の生物たち	動物「ニホンミツバチ」	(大槻 一)	..... 2
	植物「田んぼの緑のじゅうたんウキクサ」	(今尾由美子)	..... 2
・子どもを育む	東山の森と子どもを育む	(黒田雅美)	..... 2~3
	子どもたちの声 (第一回子ども東山の森づくり隊講座より)		..... 3
・森で汗をかこう	定例森づくり、班活動の紹介		..... 3~5
・トピックス	「蕎麦研修旅行 開田高原」	(長谷川紀男)	..... 6
・森づくりを生かした支援・交流			..... 6

・人は興味深い生き物である  
 そもそも東山の森との関りは、三四年前に平和公園の自然が破壊されてなるものか。と立ち上がったことに始まります。自然観察会が生まれ、さらに一〇年前には保全する東山の森づくりの会ができ、そのつながりで自然史博物館が要るよね、となりました。しかし、自然史博物館設立の道はまだ、まだ遠くて、やっと生物多様性保全活動まで到達したところです。思えば遠くまで来たものですが、出合いの多い楽しい道のりでありました。と、気が緩んだところに三・一一東日本大震災があり、これを契機に、「風立ちぬ、いざ生きめやも」というか、むしろ「まだ、やる必要がある。生きるぞ!」という気負いの毎日です。さらに、平成二六年十一月にESD持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議が愛知県・名古屋で開催されます。ESDとは持続可能な開発を実現するために発想し、行動できる人材を育成する教育のことです。今までの関わりからESDへの意見を求められる場面があり、持続可能な開発には健全な地球環境の土台が肝心であると申し上げています。

確かな未来に向かって



持続可能な開発には健全な地球環境が土台

今までは地球環境に依存する

しかし、しかしですが、ある会で敬愛する人が「(ESDも生物多様性も語りたくない) 人類は滅亡する。永続しない。自分は人生に納得して死にたい」と発言され、多くの方の共感を得ていました。自分の人生に納得すればいいのか?と反芻しています。あるいはバブル時期が働き盛りであった六〇代七〇代は「今を生きる価値が大事」「社会は発展し続けるもの」と思っているのか。単に価値の多様化で終わらせていいのか?考えようよ、と提案しているのが生物

ESDへの関りは、人類の未来への責任を問うためのものと思っと思っています。言い換えるならアメリカ・インディアンのホピ族の言葉「大地は祖先からの贈り物ではない。子孫たちからの預かりもの」ということです。

滝川正子



多様性であり、ESDであります。人類は他生物と共生できないほどの存在なのでしょう。未来を明るく考えたい。  
 ・確かな未来は懐かしい風景にある  
 写真は三年目となった七月の「虫を採って調べよう!」のイベントのときの躍動感ある写真(千種ホームニュース提供)です。これは懐かしい風景でしょうか? 否です。毎年の灯火採集の参加の親子たちも、参加者の多くは初めての虫採りであり、展翅標本づくりであります。懐かしいのではなく、たしかに未来に向かって里山・森づくり活動と保全活動、生物調査をやっているのです。

二〇五〇年には、名古屋の規模は人口も減り、現在の約七〇％に縮小する予測だそうです。すでに大学が郊外から都心部に回帰し始めているように、暮らしのスタイルも駅そば計画があり検討されています。そうなる空き地が増えることになるので、これを緑地にすることで東部丘陵の点在する緑地や雑木林は河川も含めてつながり里山が復活して大きな緑の回廊となります。なにより、持続可能な開発として、経済活動として、そこでは木質バイオマスエネルギー利用のための木材生産が行われ、当然ながら炭焼きもあちこちで復活して、炭素固定され、土壌改良、水質浄化に使われる自然と共生する未来都市が実現します。

さて、最後に人も自然の一員であるから人体がエネルギー不足の警告として「腹が減った」と言わしめている。人はガソリンを喰うわけにはいけないから、「太陽と土と水」によって育まれた命を「いただきます」と言います。結論は、たしかに未来は健全な「太陽と土と水」を土台にした懐かしい風景にある、のです。(了)

## 【 東山の森の生物たち 】

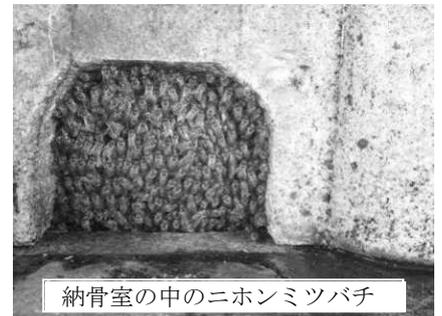
### ■動物 【ニホンミツバチ】

8月に写真の平和公園のお墓の納骨室に棲みついていたニホンミツバチの巣(1群)を寺院の依頼で捕獲し、くらしの森の巣箱に移して里山での生活が始まっています。

巣箱の中には1匹の女王蜂が産卵とフェロモンにより他の蜂の行動を支配しています、1日に1500個以上産卵するといわれています。働きバチは性的にはメスですが卵巣は卵を産めないほど退化しており巣内の清掃や給餌と外勤バチとなり花粉や蜜を集めています、行動範囲はおよそ1kmと言われています。そのほかに少数のオバチがいます。西洋ミツバチとニホンミツバチの簡単な見分け方は働きバチの体と腹部の色を比較します、西洋ミツバチの腹部は胸部に続く2節と全体が黄色をしています、ニホンミツバチは全体が黒っぽく腹部の黒と1節ごとの白い縞が目立ちます。くらしの森のオタマジャクシ池周辺の花で多く見かけます。

ニホンミツバチは花粉媒介により東山の森の植物が子孫繁栄するのにもとても大切な生き物です。くらしの森で元気に育つことを願っています。

大槻 一



納骨室の中のニホンミツバチ

### ■植物 【田んぼの緑のじゅうたんウキクサ】

田んぼに水が入り水温が高くなると、ウキクサがあらわれます。写真にある大きいほうがウキクサで小さい方がアオウキクサです。葉のように見えるのは、茎と葉の役目をする葉状体と呼ばれるものです。その中には、空気をためる隙間があり浮かびやすくなっています。葉状体からウキクサは10本、アオウキクサは1本の根が出ています。その長くてたれさがった根は、流されたり、ひっくり返ったりしない重りの役目をしています。ウキクサが増える勢いはすごく、二日で1個の葉状体が4個になり、10日で約20個、3ヶ月で約400万倍に増えるといわれています。

田んぼをおおいつくすと、低水温の田んぼでは害草となる場合もありますが、くらしの森の田んぼでは、遮光になり、雑草の抑制にもなります。中干しで田んぼのウキクサは枯れますが、越冬芽が水田の湿った土に張り付き、暖くなるまで眠り続けます。

浮草は多くの歌人にその漂うはかなさから、また「憂き」の掛詞として歌が詠まれています。

「わびぬれば 身を浮草のねを絶えて さそふ水あらば いなむとぞ思う」(小野小町)  
しかし、ウキクサはしっかり子孫を残す工夫がされた植物だといえます。

今尾 由美子



## 【 子どもを育む 】

### ■東山の森と子どもを育む

黒田 雅美

休日、家でのおんびりしていると「テレビ」「ゲーム」「兄弟げんか」・・・家事もそこそこに、暑くても寒くても東山の森に出掛けます。最初は「えーまた？」なんて言いますが、いったん遊び始めると、帰りたい！と言わない。遊具も無く、ボールなどの道具が無くてもずっと遊び続けます。なんで遊び尽きないんだろう？何もないのに・・・と、つい口にしてしまいますが、自然は子供たちに素晴らしい魅力を与え

てくれているのだなあと実感できる時間です。足首までの背丈だった草も、一週間後には膝丈まで伸びていたり、花も咲いていたりといつも違う顔で迎えて魅せてくれる東山の森。

また、森づくりの会の方々幅広い知識と子供に対する温かい心にはいつも感動と感謝を感じます。恥ずかしながらスーパーに売られている食材しか知らなかった私も、桑の実、のいちご、せり、どんぐり(!)など、「草や実」としか見れていなかったのですが、食材であることに驚くとともに、外来種に脅かされている日本の自然環境の危機について、森づくりに参加し子供と遊びながら共に勉強させて頂いております。

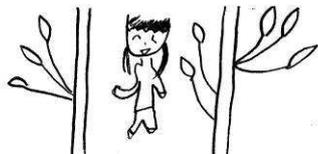


## 子どもたちの声

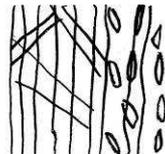
### 第一回子ども東山の森づくり隊講座(6/8)より



小2女

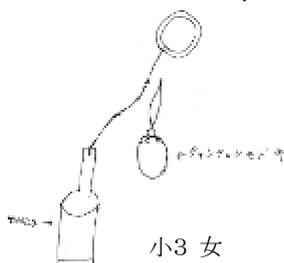


小2女



アンケート主な感想：

- ・竹のぼりでじぶんで上から五番目のせんまでのぼれましたみんなにほめられてうれしかった。
- ・竹をきったり竹であそんだりしてたのしかった。
- ・竹工作の時間を増やして！！
- ・むしもとれてうれしかった
- ・虫のことがもっとしりたい



小3女

## 【森で汗をかこう】

### ■ 定例、班活動の紹介(各班からの投稿)

#### ★定例活動

鬼頭 保

活動:毎月第1日曜日 10:00~15:00 (7~9月は9:00~12:00)

活動エリア: 奇数月=ふれあいの森・いのちの森・うるおいの森  
偶数月=くらしの森

上半期延べ参加数 201名 (内、子ども 16名)

東山の森の広さは約400haですが、有料地区である東山動植物園約

60haを除いても、あのニューヨークのセントラルパークとほぼ

同等の広さです。私たちはこの日本一とも言える都心に残された

「森」の保全活動に関わっていることになります。上半

期の活動は、せせらぎや湿地のアシ、ガマの刈取りや園路沿

いの草刈りが主でした。毎回30名強と多くの参加で取り組

んでいます。切っても刈っても生えてくる草竹の成長力に

参ってしまうこともしばしばです。かといって野放しにする

わけにはいきません。本活動は月一回の活動ですが、その結果、

くらしの森ではオオヨシキリやヒクイナが飛来し、またいのちの森では、

ギンランが見つかるなど、大きな成果が出ていることは確かです。

これからも多くの参加をお願いし、生きものたちにとって自然豊かな

里山づくりを進めていきたいと願っています。



#### ★班活動

##### ① 平和公園里山班

森谷 信彦

活動:毎月第3日曜日 活動エリア「くらしの森」

なごや東山の森づくりの会に入会したのは4年ほど前。入会のきっか

けは夫婦で一万歩コースの帰り道、里山の家に立ち寄ったところ昆虫

等の標本が多々あり、自分もこの森の生き物を知りたくなり入会しま

した。ところがドッコイそんな甘くはなく、軍手、作業靴、時には

長靴、先ず野草下草刈り、木々の伐採、そして孟宗竹の伐採、これは

体力の消耗が激しいです。ですがこのキツイ作業も次回の準備運動と



思い活動しています。

この会の良いことは、先輩方々の動植物に対する知識の豊かなことです。25年サイクルとCO<sub>2</sub>削減、この関係は全く知らなかったことです。今後とも協働して魅力ある豊かな森づくりに活動いたします。

## ② 東山公園南部里山班

滝田 久憲

活動:毎月第4土曜日 活動エリア:いのち森・うるおいの森

東山公園南部里山班はこれまで、倒木整理、下草刈り、湿地や水辺の管理、植樹などの活動を行ってきましたが、その目的が景観保全や環境保全などですから、短期間ではその成果が出ません。したがって、収穫物もないこともあり、その活動の評価が簡単ではありませんでした。しかし、八事裏山の柿畑が活動領域に入ってから、毎年、収穫物が出るようになりました。季節に応じて甘い柿や立派な梅をたわわに実らせるという成果(青果)主義的な目標が加わりつつあります。



## ③ 竹くらぶ

奥田 哲夫

活動:毎月第3・4木曜日 活動エリア:くらしの森

入会して約3年となり最初は戸惑うことばかりでした。

最近皆さんの顔を覚えるようになりましたが、名前の方は年のせいかまだまだです。里山の家まで約30分、電車でもマイカーでも同じところに住んでおります。最初は車ばかりでしたが、近ごろはメタボ対策を兼ねて公共交通機関を利用しております。

作業を終えて地下鉄東山公園駅まで行きますと、丁度1時ごろになり昼食タイムとなります。駅の近くの店で、昼のランチで一杯やるのにはまっています。しかし、夏は服が濡れたまま電車という訳にいかずそれでも家を出るときはどちらにするか迷うほどです。夏はいっぱい汗をかきますがメタボは変わりません。竹くらぶに参加して整備をしていると、スホウチク・シホウチク・スズコナリヒラ等々今まで全く知らなかった竹を知ることができます。友達にPRしている次第です。



## ④ 子ども東山の森づくり隊

藤岡 嶺子

活動:年3回 活動エリア:くらしの森・いのちの森・うるおいの森

「森づくりの会」に子どもが参加できる班が増えました。発足から8年目の「子ども隊」を続ける意味は?も含め何度かの話し合いをしました。子どもには「東山の森で楽しい時間を過ごすきっかけづくり」、スタッフには「子どもの笑顔が褒美」と考えました。今年度からなごや環境大学の講座ではなくなりましたが、森づくり会員でなくても隊員として受け入れ、継続24名+新規12名です。残り2回(10月・3月)実施予定です。



## ⑤ 炭焼班

犬飼 猛夫

活動:毎月第3土曜日 活動エリア:くらしの森の炭焼広場

少年時代生活をしていた岐阜長良を思いだすと、家の近くには畑、田んぼ、山、ため池(貯水池)、谷川が有り、夏になると沢カニ、魚、昆虫を採りに行ったり、冬になれば、近くの竹やぶに行き竹を切りだしソリを作って堤防で滑ったりして自然の中で遊んだものです。炭窯はなかったが、瓦焼き業者がいて、「里山」を構成していました。

都心で「里山」をつくるには里山に不可欠な炭焼窯が設置され炭焼きができるかどうかの問題です。現在も消煙、消臭問題が発生し、二次燃焼装置(煙を再燃焼させる)を造り何度も実験をしながら年内にもう一度立派な炭を作る予定で、全員頑張っています。



## ⑥ 田んぼ班

片山 伸子

活動:毎月第2日曜日 活動エリア:くらしの森の田んぼ 体験講座8回/年

子どもと一緒に参加でき、田植え、草取り、案山子作り、稲刈り、脱穀、餅つき・・・と、『お米』の一生を季節ごとに実体験しています。スタッフのみなさんには、お米のことや小さな生き物たちのこ

と・・・多くを教えていただいています。

12月の餅つきは、7歳と4歳の娘が大喜び。泥んこになった田植え、案山子作りや稲刈りも楽しかったようで、子どもたちの記憶にしっかりと残っています。名古屋市内の貴重な里山環境で、子どもたちが今の時代に得がたい経験ができるととても良い機会だと思います。



### ⑦ 畑班

藤田 鈴子

活動:毎月第2・第4日曜日 活動エリア:くらしの森の畑 体験講座4回/年

二年前に散歩途中で、畑で収穫中の皆さんに出逢い、「入りませんか、たのしいですよ。」と声を掛けていただき、すぐさま会員になりました。作業日が待ち遠しく今では作業日以外の日も畑に行っています。

草取り、種まき、畝作り、収穫等、中でも私は草取りが大好きです。

素手で触れる土の感触はたまりません。日を追う度に作物と会話ができるようになった気がしてきます。収穫日は倍増の喜びです。何よりも心が和む時は、班長さんの「休憩しましょう」の声で水分補給をしながら自然に囲まれ皆とおしゃべりをする一時です。汗びっしょりでもドロドロになっても心は晴々。こんな素敵な毎日を過ごせる里山が私は大好きです。



### ⑧ 藤巻班

佐藤 利和

活動:毎月第2土曜日

活動エリア:いのちの森東部藤巻町地内

春から夏にかけて明るくなった森には下草が変わって繁殖し始めた笹や枯れた立ち木、倒木などが目立ってきました。地下茎の深く蔓延った笹は地上の茎を整理しても続々と茎を伸ばしてきます。

藪蚊の隠れ家となっている笹の駆除が進めば散策時の不快感も和らぎます。かぶと虫を探しに来る人も多く、でき始めた獣道?近くの枯れ木の整理も必要となってきました。3年目の夏からの森づくりは倒木の伐採と笹の駆除を主な課題として活動しています。



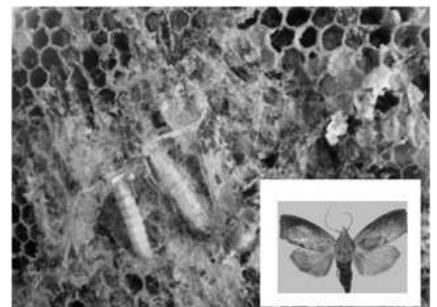
8月の藤巻

### ⑨ 調査活動班

滝川 正子

活動:随時 活動エリア:東山の森全域

毎年、夏に平和公園と東山南部で甲虫類と蛾類の灯火採集による調査をしています。なごや環境大学に応募して4回講座の運営をしています。会員の人も含め約百名の参加者があります。この灯火採集で毎年のようにハチノスツヅリガ、別名スムシが採集されます。名の通りハチの巣に寄生する虫ですので、ハチの天敵です。なんと今年から始まったニホンミツバチ養蜂チームの関わったミツバチの巣から数百匹の幼虫が出てきました。



### ⑩ 東山の森そばくらぶ

長谷川紀男

活動:毎月第1土曜日 活動エリア:猫洞通1バス停東側

「そばくらぶ」が発足して初めて、なごや広報8月号で「H25年蕎麦作り作業体験」参加者募集をしました。定員15名に対し26名もの応募がありましたので抽選で15名を決定しました。第1回8月31日(土)から12月8日(日)まで4回講座を行う予定です。

蕎麦の栽培から脱穀、製粉、ソバ打ち体験まで蕎麦作りに期待して応募した人達を裏切らない様、会員一同気を引き締めて、楽しく蕎麦作り体験をしたいと思っています。



☆各班の集合場所、時間などの詳細は出来る限りホームページ「活動予定」で案内しています。皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

## 【 トピックス 】

### ■ 蕎麦研修旅行 「開田高原」

長谷川紀男

なごや東山の森の夏ソバは順調に花も咲き生育して今年は大豊作と思いきや、収穫してみたら穂の中に実がないではないか！鳥に食べられたか？気候のせいかな？会員一同唖然とする。

我々そばくらぶは一年生、原因究明の為そば処で有名な「開田高原」に行き話を聞こうと思立ち、7月24日(水)、生憎の雨であったが会員19名マイクロバスで行く。

前もって予約した木曾役場開田支所の農事組合法人「アースかいだ」中村理事から蕎麦栽培のいろはを指導して貰う。一般的に蕎麦は痩せ地でも出来ると云うが、美味しい蕎麦のできる3条件がある。①黒い火山灰土 ②昼夜の気温差が大きい ③標高が高い所、が良いと云う。

東山の森の蕎麦畑は、どの条件をも満たしていないが、昨年、味はイマイチであったが収穫は出来たのに今年は何故実らなかったか？と質問。蕎麦にはそれぞれの土地の気候条件に順応した品種があり、夏ソバタイプと秋ソバタイプがある。どうも我々が蒔いた種は秋ソバタイプではなかったか、と指摘され、目から鱗であった。

肥料や種の蒔き方や雑草の始末等いろいろ勉強になった。他に、「ソバ製粉製麺工場」で工場長から玄ソバの製粉から製麺・蒸気殺菌して市場に「生ソバ」として出荷する工程を見学しながら話を聞く。此處で2時間ほど研修して、蕎麦体験道場に向かい、7名が蕎麦打ち体験し、それ以外の方はレストランで開田そばを食べ、新鮮な空気を胸一杯に詰め込んで開田高原を後にした。

短い時間であったが実際に専門家の話を聞いて、蕎麦について一層愛着がわくと同時に、今後の蕎麦栽培に期待が持てるようになり有意義な研修旅行であった。



## 【 森づくりを生かした支援・交流 】

### ★支援・交流

- ・名古屋市職員研修「NPO派遣研修」研修生受入れ(名古屋市)
- ・環境デーなごや2013 身近な自然体験会「ビーティグネットとタモで昆虫採集」(名古屋市)
- ・なごや生きもの一斉調査2013 オオキンケイギク編(なごや生物多様性保全活動協議会)
- ・里山くらし体験「田んぼ講座」「サツマイモ講座」「そば作り講座」(名古屋市)
- ・なごや生物多様性サマースクール2013  
「ニワトリの翼で標本づくり」「ダンゴムシレース」(なごや生物多様性保全活動協議会)
- ・NHKこどもサマースクール「どんぐりの見分け方を知ろう」(NHK、なごや環境大学)
- ・どんぐりクラブ「竹からお箸や器を作ってみよう」(蓮教寺)

### ★ホームページを見てください!!

⇒ 当会の活動を紹介するホームページです。

定例活動・班活動の様子、子ども森づくり隊の案内、各種イベントの紹介、森の中で観察された生きものの紹介などなど内容豊富です。ぜひご覧ください。

☆最近の東山の森の表情(動植物の画像)を募っています。是非の提供をお待ちしています。

自然を豊かにし、  
人生を豊かにする  
森づくり活動に  
参加しよう!



なごや東山の森づくりの会

検索

《会員数：9月末日現在 181名 (個人 177名 企業 4社)》

### 《会員募集》

人と自然の いのち輝く森  
「東山の森づくり」に参加しませんか!!

年会費：2,000円 (企業：10,000円/1口以上)

入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕鬼頭 保  
Tel/Fax: 052-751-9510  
e-mail: kito022445@mediacat.ne.jp

### 編集後記

投稿歓迎 ⇒ 水谷泰通 Tel: 052-782-5036  
e-mail: y-mizutani@r7.dion.ne.jp

兼好法師は徒然草の中で、何事にも「先達はあらまほしきことなり」といっていますが、ソバ、ニホンミツバチ、炭焼き、いずれについてもその道のプロの指導を仰ぐのが成功の早みち、♪わかっちゃいるけど♪「ああでもない、こうでもない」と皆で口角泡を飛ばすのもまた楽しからずや、というところでしょうか。